

中等科・高等科

企画課管理用 教 ー C ー 2

推進主体	中等科・高等科
責任者	中・高等科長

分類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
教	ー	C	少子化対策の議論と提言	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)

① 目的・内容

この30年間の出生数の減少が社会全体に大きく影響を与えていることは言うまでもない。単に学齢生徒数の減少に伴う経営環境の著しい変化という面だけでなく、学校が社会から求められるもの、学習院が行っていくべき教育の在り方についても含めて、全院的な議論を進める必要がある。

その議論を、まずは現場である各学校から始めることが望ましく、中高等科においても活発な議論を行いたい。当然ながら中高等科で完結するものではなく、その議論は法人に引き継がれ、全院的なものとなるべきである。

詳しい内容は議論の中で徐々に明らかになると思料されるが、開始前の段階では

- ・学級数および学級定員、適正な教員総数とその配置について
- ・生徒募集の在り方について
- ・家庭と学校のコミュニケーションについて

などが考えられる。

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

第1段階: 中高等科での闊達な議論を踏まえた一定の方向性の明確化
 第2段階: 法人・中高間の円滑な情報交換に基づく施設面・人事面・財政面の検討

③ ロードマップ

年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
予定	第1段階 (中高)		第2段階 (法人・中高)		第3段階 (実現に向けての体制づくりと提言)		

④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							
2	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
(2022年度) 令和4年度	<p>高等科では入試・カリキュラム委員会、中等科では新たに委員会を立ち上げ、対策案をまとめて各教科会に提言する。提言を受けて各教科会で議論し、両科の認識を共有する。このように今後の議論の意識付けをねらいとし、議論に枠を設けず、課題を挙げ改善の方向性を話し合い、法人に対しても提言する。問題意識を継続させるためにこの議論を隔年で行い、新たな情勢に対応していく。(議論①)</p>	<p>中等科では、主管業務に関する議論の中で生徒個々への対応を行う上での適切な学級編成について検討の可能性が示唆された。</p>
(2023年度) 令和5年度	<p>主管業務に関する議論を通して、適切な学級編成について検討する。法人において検討の始まったブランディングの議論にも留意し、将来的な学校の在り方を柔軟かつ慎重に議論する。</p>	<p>主に中等科での生徒募集の在り方について検討委員会を設置して検討し、オープンスクールを実施した。</p>
(2024年度) 令和6年度	<p>中等科でのオープンスクールは、授業体験会として引き続き充実させる。生徒募集の在り方について検討委員会でさらに検討する。主管業務に関する議論を通して、適切な学級編成について検討する。法人において検討の始まったブランディングの議論にも留意し、将来的な学校の在り方を柔軟かつ慎重に議論する。体育館の建て替えを念頭に施設面での改善も併せて検討する。</p>	<p>中等科の授業体験会をすべての教科が参加して実施した。実施の時期について、検討の必要性が認められた。</p>
(2025年度) 令和7年度	<p>中等科の授業体験会をより充実させるため、春休み中の実施を試行する。主管業務に関する中長期的な議論を通して、適切な学級編成について検討する。ブランディングの議論にも留意し、将来的な学校の在り方・規模を柔軟かつ慎重に議論する。体育館の建て替えを念頭に施設面での改善も併せて検討する。</p>	<p>中等科の授業体験会をすべての教科が参加して実施した。またクラブ体験会を春休み中に実施した。主として主管業務の負担軽減を目的として業務内容の見直しと改善に着手した。具体的には、少子化の影響と考えられる親子関係の変容に対応できる学校体制について、幅広い議論を行った。スクールソーシャルワーカーの必要性を法人と連携して検討し、来年度の導入に向けた議論を行った。</p>
(2026年度) 令和8年度	<p>中等科の授業体験会を引き続き開催する。クラブ体験会は春休み中に実施する。主管業務を中心に業務内容の改善策を引き続き検討し、実施可能なものについては逐次実施することで効果を確認するとともに、学級編成などのやや大がかりな改善についても議論を行う。ブランディングの議論にも留意し、将来的な学校の在り方・規模を柔軟かつ慎重に議論する。体育館の建て替えについては令和9年度以降に計画策定に着手することが見込まれているが、これを含めて施設面での改善を検討する。スクールソーシャルワーカーの効果的な活用に向けた組織づくりを行う。</p>	